

# 琉球大学学術リポジトリ

## Ryudai News Letter `08(Vol.5)

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学 公開日: 2024-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 琉球大学 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24564/0002020165">https://doi.org/10.24564/0002020165</a>

# Ryudai

[ 琉大ニュースレター ]  
琉球大学の事業や各学部の取組が分かる!



# News Letter '08



- p02▶2008年学長年頭挨拶
- p04▶教育・研究に関する記事
- p06▶学生活動に関する記事
- p08▶就職に関する記事
- p08▶管理・運営に関する記事
- p10▶社会連携に関する記事
- p11▶国際交流に関する記事
- p13▶受賞一覧
- p14▶評価
- p16▶その他

琉球大学附属図書館



0020158092062

377.3  
SO  
5  
雑誌

# Vol.5

2008.3

## 2008年 学長年頭挨拶



新年おめでとうございます。新しい年の始めにあたりまして、ご挨拶をさせていただきます。

昨年暮れに各学部を訪問して、大学の現状をお話し、先生方のご意見を伺いました。なかなか現状は厳しいわけですし、説明する方もお聞きになる方もあまり元気の出ない話が多かったと思います。その時に申しました様に、全国で地域ごとにコンソーシアムを作り旧帝大等の有力大学を中心として地域で連携した活動をするという話が進んでいるという事を申し上げました。沖縄では九州等に加わるのではなく、琉球大学が中心となり独立して沖縄のコンソーシアムを形成し、しっかりした研究・教育をやっていく必要があるということをお話しました。そういう事を考えますと現在経済的にも非常に厳しい状況ですが、私共の様な地方の大学は落ち着いて、しっかりとした教育・研究を発展させていく必要があると思っております。私共の大学は地域性、国際性を重視するという事が前の学長の頃からずっと目標として掲げられております。しかしながら外から見たとき、見えるものが非常に少ない訳です。しっかりとした核をつくり、外からきちんと見える様な形の地域貢献や国際性を特徴として出していく必要があると考えております。そう考えますと、本年4月から発足致します観光産業科学部が我々の大学の大きな外から見える特徴になると考えます。この観光産業科学部は、前学長でありました森田先生、それから嘉数副学長、法文学部長さんはじめ皆様のご協力が出来上がった学部であり、沖縄の特性を生かした新しいタイプの経済学部であると思っております。

次に、各学部において昨年から検討されていることについては、今年も引き続き発展させていく必要があると考えます。法文学部におかれましては、スミソニアン博物館やハワイ大学と共同して行う「人の移動」の研究が概算要求で4千3百万円の大きな経費を獲得しました。これは重要な研究の核となって発展していくものだと思います。さらに法科大学院におかれましては、司法試験の合格者を多数出されまして大変おめでたい事がございます。しかし、残念な事に概算要求を行って行っていたハワイ大学ロースクールとの教育連携プログラムは認められませんでした。これは是非今年獲得に努力したいと思っております。産業経済活動も人の移動も国際化が激しくなっておりますので、

法科大学院で国際的に活躍する法律家を育てるという事も私共の大学の特色にもなる大きな役目であろうと思っております。

法文学部では、さらに色んな研究の芽がございます。それらを発展させて大学の教育研究の重要な核になっていく事が考えられます。

教育学部では、離島教育など沖縄県の困難な教育事情に対して色々努力をなさっております。これが大学の大きな特色になると思っております。次に、教員免許の更新につきましては、法律の方が先行してしまいましたが、これは琉球大学が中心として実施して行かなくてはいけないと考えています。大きな負担になりますが、これも一つのきっかけとして教育の新しい形を創り上げて行くというように活用する必要があるかと思っております。宜しくお願い致します。

次に理系の学部ですが、理学部はCOEを獲得し、業績をたくさん挙げておられます。これはまさに琉球大学の特色となり、外からはっきり見えるものになっております。引き続きご活躍をお願いする所でございますが、拠点形成をやらなくてはなりません。ここには熱生研や遺伝子実験センター、そして海洋生産の方々を含めてご検討をお願いし、ますますの発展が期待されます。工学部ではIT関係の発展が望まれます。昨年は機械システム工学科、電気電子工学科ではJABEEの認定を受けておられます。今年は環境建設工学科がJABEEの認定を受ける為の準備を進めておられます。農学部は泡盛発酵関係の研究で大きな特色を出そうと努力されています。また、昨年はウコンの研究などに成果がみられますが、さらに今後特色のある研究が多数期待されています。

今申し上げました理学部、工学部、農学部は共同して防災研究を盛んに進められております。ご承知の様に地球温暖化が進んでおり、その影響もあると思っておりますが、台風が非常に大型化し、強力なものが発生する傾向になっております。台風がたくさん来襲する沖縄県にとっては大変なことでございます。局地的な豪雨も起こり、それによる地滑りや河川の氾濫もござります。専門家ではないのでよく分かりませんが、沖縄県は長い間あまり大きな地震が無いと安心していましたが、どうも安心している訳にはいかないと言われております。

このような事を考えますと大学の特徴として、また沖縄県に非常に重要なものとして防災研究があると思っております。昨年末に工学部の土木工学科創立50周年の記念事業の一つとして行われました防災シンポジウムは、非常に多数の方の参加があり盛況だったと聞いております。さらに工学部では、若手研究者の支援、ハノイ工科大学との交流協定等を結ばれ、ますますの発展が期待されます。

医学部では、医学部ができる前には県内の難しい病気は他大学や研究施設に分析等をお願いしておりましたので、医学部ができた頃にはいろんな大学や研究所が沖縄の材料を研究に使うため来沖し収集してまして、悪い言葉で言いますと「草刈場」になっておりました。しかし医学部ができてから県内の疾患の研究がどんどん進み大きな特徴ある成果を出しております。附属病院におか

れましてはそういったことをベースにして癌の拠点病院化、長寿の研究、感染症の研究等が進んでおります。それからもう一つは地域医療等社会ニーズに対応して質の高い医療人を養成する推進プログラムが採択されておりまして、ますます特色を出していけると思っております。図書館では、「びぶりお文学賞」や以前から実施しています沖縄に関する貴重な文献の収集を行ってまいります。「びぶりお文学賞」は最近、若い方々の読み書きの能力が落ちていると言われたりしますが、県内のリーダーを創るという意味でこの文学賞は非常に役に立つ事であろうと思っております。第1回の「びぶりお文学賞」の贈呈はすでに昨年行われました。

以上の様な色々な核を作って大学が外から見える形をしっかりと出していき、発展をしていく様にしたいと思っております。

ここでもう一つ大事な事は外から見える様な核になる研究以外の研究、本当に基礎的な研究はなかなか外から光が当たらないものです。これもしっかりと支援していく必要があろうと思っております。特に研究の面では、昨年若手研究者、女性研究者、外国人研究者に支援をしっかりとやっていくことにしております。これは、将来にとって非常に大事な事です。しかし本当に基礎的な研究、あまり目立たない研究をどうやって支援していくかという事が重要であります。昨年は科学研究費の相談窓口を設けました。それから概算要求等に関してもしっかりと戦略的に獲得していく様にする事を行っておりますが、これは引き続きやっていきたいと思っております。それから先程ちょっと申し上げました防災関係の研究センター、これは非常に地域にとりましても重要な事でありまして、大学の大きな目玉になりますので、しっかりとやっていきたいと思っております。

学部・部局の教育研究活動の次は、昨年末教育研究評議会では申し上げましたけれど、「特別教育研究経費」、簡単に言いますと概算要求の結果でございます。一つは先程申しました観光産業科学部が4月に設置されます。こちらは昼間の学生が120名、夜間が20名、計140名の学生定員で出発致します。研究経費等のプロジェクト分としましては先程も申し上げました「人の移動」に関する研究、それから医学部の沖縄県や九州でたくさんみられますHTLV-1関連疾患等の研究などで、計2億2千万円のお金が付いております。それから今年度からの継続分の7件はいずれも採択されております。附属図書館の貴重資料修復保存分や附属小学校の整備それから附属病院の財投によるもの、これはすべて採択されておりまして、計約13億円の予算を受け取る事ができます。しかしながら我々の大学は昨年の運営費交付金が134億円でございましたが、来年度は130億円で4億円の減になっております、この理由は文科省全体としてみますと1%の経営効率化係数によるものが120億円減でございます。しかし文科省はかなり頑張ってくれまして基礎的研究で125億円程獲得し、この1%減の部分は帳消しになっています。ところが、退職手当、これは今まで少し多めに緩やかに計算して各国立大学法人に財務省から配っていたようですが、それをキチキチにやっていくという事で、そちらの減が235億円でございますから文科省全体としましては結局は

230億円の減でございます。しかしながら概算要求で事務方の大変な頑張りもございまして私共の大学はトータルとしては4億円減だけですんでいます。概算要求でかなり沢山のものを獲得しております。

その他、大学では、「エコアクション21」、これは施設運営部等が進めているところでありますが、認定を受けるように準備しております。昨年本部及び図書館の周囲について認定を受けましたが、大学が広いものですから3年間に分けて認定を受けます。皆様方もご覧になりました通り朝日新聞の今年の元旦の一面の記事は地球温暖化でございました。この3日間各新聞社、それからTVも温暖化についての色々な特集を組んでいました。確かに温暖化が進んでおります。この温暖化の原因について色々な意見があると聞いておりますけれど、CO<sub>2</sub>は人間の色々な産業活動や生活で排出され、1年では70億トンであると言われてます。他方、地球が処理できる量が30億トンという事でございまして、毎年40億トンずつ溜まっていっているようです。これはしっかりとした対策を立てる必要があります。日本は京都議定書で2012年までにCO<sub>2</sub>の排出量を1990年よりも6%減少させるという事を言った訳でございますが、残念ながら毎年CO<sub>2</sub>の産生排出は逆に増えているという事を聞いております。こういう事もございまして大学としましては率先してCO<sub>2</sub>の問題やエコロジーについての啓蒙、そして教育研究をやっていく必要があります。エコアクション21の認定を今年もしっかり受ける様にしております。

次に学生の就職支援です。これは就職センターの皆さんの活躍でどんどん学生の就職意識がよくなっておりますが、さらに努力する必要があります。その他と致しましては「やわらかい南の学と思想、琉球大学の知への誘い」という題で、大学にありますいろんなたくさんの研究や英知を分かりやすい本にして出版し、社会に向けて琉球大学のやっている事をお見せするという事を考えておりまして、沖縄タイムス社が出版を引き受けてくれることになっています。それ以外にも放射線医学総合研究所と琉球大学との協定を昨年結び、癌の治療等に益々の進展が望まれます。

以上、少し細かな話まで致しました。今年は昨年お話しした様に、経済的にはかなり厳しい状況ではございますが、厳しい厳しいと言っているだけではだめで、今年は少し攻めの姿勢に転じ、こういう時代であるからこそ地方の大学では落ち着いてしっかりとした教育と研究を進展させていきたいと思っております。

琉球大学が益々発展し、皆様方が益々発展される様に祈っております。簡単ではございますけど年頭にあたりましてご挨拶を申し上げました。どうもありがとうございました。

2008年1月4日

琉球大学長 岩政輝男

# 琉球大学の事業や各学部の取組が分かる



教育・研究

p4



学生活動

p6



就職

p8



管理運営

p8



社会連携

p10



国際交流

p11



受賞一覧

p13



評価

p14



その他

p16

Ryudai News Letter

## 「琉球大学びぶりお文学賞」授賞式

教育・研究

12月14日（金）、附属図書館多目的ホールにて、「琉球大学びぶりお文学賞」の授賞式が行われ、応募作31点の中から「あおい海の目で」「びぶりお文学賞」を受賞した山原みどりさん（法文学部国際言語文化学科3年）、佳作の村上陽子さん（人文社会科学



関係者での記念撮影

研究科国際言語文化専攻2年）、大谷凜さん（法文学部人間科学科2年）、砂川祐樹さん（工学部情報工学科4年）の4名に岩政輝男学長より賞状と副賞が手渡されました。

「琉球大学びぶりお文学賞」は、「地域及び広く社会に貢献する人材」「意欲と自己実現力を有する人材」の育成の一環として、言語力を向上させ、想像力、表現力、創造力豊かな学生を育成するとともに、文学の啓蒙活動を高

め、地域社会における文学・文化活動のリーダーを排出する事を目的とし、今年度から実施されました。

岩政学長は、「皆さんおめでとうございます。今回の受賞を機会に他の分野でもますます発展していくよう頑張ってください」と受賞を讃え、受賞した山原さんは「背伸びしないで書いたのがよかったと思います。これからの自信にして頑張っていきたい」と喜びのコメントをしました。

## 教員免許更新講習に係る講演及びパネルディスカッションを開催

1月16日（水）、本学法文学部新棟215教室において、教員免許更新講習に係る講演及びパネルディスカッションが開催され、沖縄県内の教育関係者ら約170名が参加しました。

大木高仁 文部科学省初等中等教育局教職員課長が「教員免許更新講習の最新情報」と題して講演を行い、制度導入について「沖縄県は多くの離島を抱え課題も多いが、積極的な取組をしてほしい」と述べ、また、教員等から寄せられた講習の実施方法や受講対象者等の質問について説明を行いました。

その後、パネルディスカッションが行われ、「琉球大学の取組み」

を吉田安規良 琉球大学教育学部准教授、「放送大学の取組み」を金城宏 放送大学沖縄学習センター教務主幹からそれぞれ説明があり、講習時期や場所の検討、教育委員会との連携など実施に向けた課題について指摘がありました。質疑応答では、教員の少ない大学がどういった取組みができるかなど活発な意見交換が行われました。



パネルディスカッションで意見を述べる大木課長（右から2人目）

## 21世紀COEプログラムがシンガポールで国際ワークショップを開催

2007年9月25-29日、本学の21世紀COEプログラムはシンガポール国立大学との共催で「熱帯島嶼の生物多様性：陸と海の境界を越えて」に関する国際ワークショップを開催した。研究会議に加え、マレーシアのティオマン島でフィールド視察も行った。

研究会議では「海洋生物の多様性」、「島嶼における動物の多様化と絶滅」、「島嶼における植物の多様性と生物地理」の3つのテーマで基調講演4題、口頭発表24題、ポスター発表14題が行われた。いずれの話題も熱帯・亜熱帯生物の系統分類や生態に重点を置いたもので、内容に食い込んだ質疑を通して本質的な議論ができた。口頭発表では、若いCOE研究員も座長を分担し、国際会議の経験をさらに深める機会になった。さらに「多数の未記載種を抱える分類群」と「DNA情報に基づく生物種バーコードの可能性」の2テーマについての討論会も行われた。

研究会議2日目にはシンガポール国立科学アカデミーLeo Tan Wee Hin会長も出席され、参加者と活発に情報交換を行った。特に本学とシンガポール国立大学の交流の発展について期待を述べておられたことは、当地でワークショップを実施した成果の一つであろう。なお、研究発表・討論の内容についてはラッフルズ生物多様性研究博物館が刊行するRaffles



ティオマン島では珍しい動物がお出迎え



基調講演に耳を傾ける参加者たち

Bulletin of Zoologyの増刊号にまとめられる予定である。

国立公園であるティオマン島に滞在中は、早朝や夜間を含む様々な時間帯に森林やマングローブ、サンゴ礁での視察を行い、東南アジアならではの様々な動物や植生を観察することができた。なかでも島を徒歩で横断（行程7km、高低差300m）した折り、琉球列島では見ることのできない自然環境や多様な生物を観察できたことは大きな収穫であった。

## プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー授賞式

1月29日（火）、大学会館にて、「学生による授業評価アンケート」で評価の高かった教員に贈られる「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」の授賞式が行われました。

当制度は、すぐれた教育実践を行っている教員を表彰し、受賞者の教育技術や指導方法を公開・共有することで本学全体の教育の質を向上させる事を目的とし、受賞者にはインセンティブ経費を供与することとしています。選出方法は、共通教育等科目の10科目群から1科目ずつ選出し、その担当者計10名をプロフェッサー・オブ・ザ・イヤー受賞者として表彰しています。

授賞式では、岩政輝男学長より一人ひとりに表彰状が手渡され「工夫を凝らした、いい講義をして頂いてありがとうございます。今後ともよろしく願います」と激励しました。

なお、服部洋一教育学部准教授、仲間勇栄農学部教授、山城一美非常勤講師、浦崎猛非常勤講師の4名は2度目の受賞となりました。



受賞者及び関係者での記念撮影

受賞者：服部洋一（教育学部准教授）、野入直美（法文学部准教授）、山城一美（非常勤講師）、浦崎猛（非常勤講師）、仲間勇栄（農学部教授）、菅野聡美（法文学部准教授）、岡崎成生（工学部講師）、那須泉（非常勤講師）、友寄全志（非常勤講師）、石原嘉人（留学生センター准教授）



10月6日(土)及び7日(日)両日、「時代の荒野に琉大生文化の根を張ろう」を統一テーマに、第56回琉大祭が開催されました。

本祭典に先立ち、10月4日(木)には琉大祭の開催をPRするため、那覇市内でプレフェスタを行いました。プレフェスタには4団体(法政エイサー、合気道部、ダイビングクラブ、スタジオジャグリ)約100名の学生が参加し、那覇市の牧志公園から県庁前まで国際通りをパレードした後、県庁前広場において各団体による演舞等を披露しました。

10月6日(土)及び7日(日)に開催された本祭典では、

初日は台風の接近で風が強かったものの、二日目は天気恵まれ、講義室・体育館等を利用した展示・発表等の企画に40団体、プロムナードでの模擬店に70団体が参加し、模擬裁判の上演、器械体操・ラート上演、法政エイサーや琉大ミュージカル等多彩な催し物を行い、両日とも多くの参観者で賑わいました。

また、「沖縄戦のわい曲を許さない!教科書からの『集団自決』の日本軍強制記述削除を問う」と題し、作家の目取真俊氏を招いて講演会が行われ、会場には120名余りが参加し、熱心に聞き入っていました。



国際通りで行われたプレフェスタのパレード



法政エイサーによる演舞

## ハンドボール第16回九州学生リーグ秋季大会準優勝

本大学男子ハンドボール部は、8月下旬に宮崎県の綾てるほドームで行われた第16回九州学生リーグ秋季大会1部リーグで、4勝1敗の成績で、01年秋、03年春、07年春に続き4回目の準優勝に輝きました。

8月の上旬に行われた西日本インカレで、11月に北海道函館市で行われる全日本インカレの出場権を獲得しており、チーム全体のモチベーションが高く今回の好成績につながりました。女子も今回の九州リーグで3位になり全日本インカレへの出場権を獲得しました。

男子から多和田真尚、仲栄真史哉、女子から高良美乃里の3選手が優秀選手に選ばれました。男子ハンドボール部の多和田真尚主将は「楽しんでやった結果、レベルの高い県内のチームにも勝って嬉しい。全日本インカレではまず1勝したい」と抱負を語った。男女ハンドボール部の顧問をしている三輪一義准教授は「スポーツ推薦を実施していない国立大学で、



準優勝したハンドボールチーム

全日本インカレにアベック出場しているチームは全国の中でも琉大のみであり、学生の日々の努力を心から称えたい」とコメントしました。

## 第22回九州各県大学リーグ決勝大会優勝 九州大学サッカーリーグ2部昇格

本学全学サッカー部は、11月30日（金）から12月3日（月）の期間、沖縄県総合運動公園サッカー場で行われた第22回九州各県大学リーグ決勝大会において、九州各県の代表校とのトーナメントを次々と勝ち進み、決勝では同じく沖縄県代表の沖縄国際大学を3対2で下して優勝に輝き、このトーナメントの優勝・準優勝チームに与えられる九州2部リーグへの入れ替え戦の権利を手に入れました。

12月15日（土）、恩納村かりゆしスポーツパークで九州大学サッカーリーグ2部12位の近畿大学産業理工学部と入れ替え戦を行い0対0で規定により、見事九州大学サッカーリーグ2部への来シーズンからの昇格を決めました。

各県決勝大会の優勝、2部リーグへの昇

格は、共に全学サッカー部史上初の快挙であり、サッカー部に着実に力がついてきている証とも言えます。

来シーズン初めて2部リーグで戦うサッカー部の活躍に期待したい。



昇格を決めたサッカー部

## 比嘉周作さんが第45回富川杯剣道選手権大会で2連覇

11月10日（土）、県立武道館で開催された第45回富川杯剣道選手権大会・大学男子の部で比嘉周作さん（法文学部人間科学科3年）が昨年に続き優勝し、見事2連覇を果しました。剣道の試合での連覇の難しさはよく知られており、比嘉さんの快挙である。準優勝者も仲舛拓さん（医学部剣道部）で、本学剣道部のレベルの高さを示しました。

また、本学剣道部では、9月21日に部員と顧問教員14人で国立台湾大学剣道部を訪問して交流稽古を行いました。台湾大学側では顧問の梁先生、主将の曾さんを始め50人近い部員とOBが歓迎してくれました。試合稽古と地稽古を行ったあと、大学近くの餃子屋さんで交流会が持たれました。言

葉は通じなくても雰囲気は和気藹々でありました。この交流は、台湾大学からの短期交換留学生で琉大剣道部員としても活動した林宇容さんの努力で実現しました。



2連覇した比嘉さん（左）

## 学生と学長との意見交換会を開催

11月26日（月）、本学第1会議室にて、学生と学長との意見交換会が開かれました。

学生の声を直接聴くことによって、今後の大学運営等（教育環境、教育方法の改善、学生生活支援、キャリア支援等）に反映させることを目的とし、岩政輝男学長、新里里春副学長、各学部の学生代表者13名、関係部署の各部課長らが参加しました。

岩政学長より本学卒業者の就職状況、大学の運営状況の説明があり、「本学を魅力のある大学にする為に、皆さんが大学生活において普段思っている意見を聞かせて欲しい」と挨拶がありました。

その後、意見交換が始まり、学生からは奨学金について、

カリキュラムの充実、図書館の専門書について、障害をもつ学生への配慮等さまざまな意見がでました。

進行役の新里副学長からは「できるかぎり皆さんの意見を反映できるようにしたい。これからも、ご意見箱等を設置し意見を聞いていきたい」と今後の抱負が述べられました。



意見交換会の様子



## 合同企業説明会を開催

就職

12月10日（月）から12日（水）の3日間、大学会館3階大ホールを会場とし、合同企業説明会を開催しました。

学生の職業・職場選択の機会を拡大させ、また職業意識等の高揚に資することを目的として、平成21年3月卒業（修了）予定者を対象に、企業の人事担当者による業界、会社概要及び求人状況等の説明を行いました。

県内及び県外企業48社が参加し、各企業ブースとも多くの学生が訪れ、真剣な表情で説明を聞いていました。



説明を聞く参加者

## 公務員試験合格者による就職対策講演会を開催

農学部進路指導委員会では11月30日（金）に、学生の就職支援事業の一環として、2007年度に沖縄県地方上級試験に合格した学生（長谷智宏さん、渡慶次功さん、謝花喜登さん）の皆さんと、既に公務員として活躍中である本学部卒業生（沖縄県農業研究センター 澤岷哲也さん）による就職支援の講演会を開催しました。

長谷さんはこれから就職活動を始める3年生に、どのように会社選びをしていけばよいか、また就職活動の具体的な進め方についてアドバイスしました。謝花さんは公務員試験の

あらしを説明し、2次試験では専門的知識を問われるので日々の授業での学習をしっかりと取り組むよう自らの経験を伝えました。澤岷さんは農業研究センターの組織の説明およびセンターで取り組んでいる研究内容の説明のあと、自分がやりたいと思ったことをしっかりもって、それに向かって努力すれば必ず願いはかなえられるはずとエールを送りました。講演会には約20名の学生が参加し、真剣な表情で先輩方の貴重な意見に耳を傾けていました。



## 観光産業科学部を設置

管理運営

平成20年4月より、国立大学法人初の観光系学部として、観光産業科学部を設置することが12月3日付けで文部科学省から設置を可とする通知を受け、翌日4日に第2会議室にて記者発表が行われました。

記者発表は、岩政輝男学長、嘉数啓副学長、平敷徹男観光産業科学部設置準備室長、平良一彦観光科学科長、牛窪潔産業経営学科長らが出席しました。岩政学長が「観光は国においても観光立国行動計画が推進されており、地域特性や環境にも配慮していく広い視野を持った人材を育成し、沖縄の発展にも役立てていきたい」と挨拶し、続いて嘉数副学長から観光産業科学部の概要が説明されました。

観光産業科学部は、法文学部から分離する観光科学科と産業経営学科の2学科から構成され、入学定員は観光科学科



記者発表で挨拶する岩政学長（左から2人目）

60名、産業経営学科80名（昼間主コース60名、夜間主コース20名）となっています。

## 泡盛学キックオフシンポジウムを開催

11月19日（月）、那覇市内のホテルにおいて、本学寄附講座（泡盛学講座）設置へ向けての産学官連携「泡盛学」キックオフシンポジウムを開催し、沖縄県、沖縄県酒造組合連合会、沖縄県酒造協同組合、（社）泡盛マイスター協会、本学関係者ら約180名が参加しました。

はじめに岩政輝男学長、宜保清一農学部長の挨拶があり、岩政学長は「泡盛学の講座、研究が全国的になるように、皆様のご支援よろしく申し上げます」と述べました。

続いて、竹田靖史鹿児島大学名誉教授による基調講演が行われ、鹿児島大学における「焼酎学」と寄附講座開設の経緯について説明し、泡盛学講座と焼酎学講座の連携に期待を寄せました。

シンポジウムでは、泡盛マイスター協会の喜瀬真三氏、県酒造組合連合会の佐久本武氏、忠孝酒造株式会社の熱田和史氏、県工業技術センターの比嘉賢一氏、酒類総合研究所の三上重

明氏らがそれぞれ泡盛に関する研究や、製造方法等を発表し、パネルディスカッションでは、泡盛を世界的ブランドにするための人材育成や、泡盛学講座に期待をよせる意見等もあり、活発な意見交換が行われました。



パネルディスカッションの様子

## 第4回琉大21世紀フォーラムを開催

11月2日（金）、法文学部新棟215教室にて、第4回琉大21世紀フォーラムを開催し、八田達夫氏（政策研究大学院大学学長）による講演が行われ、学生、教職員、一般参加者約100名が参加しました。

八田氏は、日本及び米国の大学で教養科目を教えた経験から、教養科のあり方や両国の教育の違いなどについて講演を行い、「学生にやる気を起こさせるには、物理でも化学でも最先端のことを教え、本物に触れさせることで興味を持たせる事が大切。また、教養科目で英語の教科書を使うと英語力の向上にもつながる」と話しました。

講演後には、岩政輝男学長が挨拶し「学生がいきいきと学習できる環境を作っていきたい」と抱負を述べました。



公演を行う八田政策研究大学院大学学長

## 千原寮において消防訓練を実施

琉球大学千原寮において火災が発生した場合を想定した通報訓練、避難訓練、消火器使用訓練及び消火栓操作訓練を行いました。前年度までは、平日に実施したこともあって参加者が少なかったことから、今回は、12月8日の土曜日に東部消防署の協力を得て実施しました。

訓練は、南星棟2階から出火、通報、消火、避難訓練を行い、消防車も駆けつけ鎮火するという想定で行いました。終了後、消防士から避難や誘導もスムーズに行われたと評価された一方で、警報が鳴っている状態で寮内放送した場合は、避難誘導の放送が聞き取りづらかったとの指摘がありました。

最後に消火器による初期消火の訓練や消火栓の操作説明が

あり、寮生・職員の一人ひとりが防災意識を高めることができました。



消火訓練をする寮生

## 平成19年度医学部解剖体慰霊祭を挙

11月21日（水）、医学部体育館において、平成19年度医学部解剖体慰霊祭が挙行されました。解剖体慰霊祭は、医学の教育・研究及び診療の発展のため、ご遺体を医学部に提供された数多くの御霊に対し、ご遺族をはじめ関係者の皆様にご臨席いただき、職員、学生一同そのご冥福をお祈りするものであり、毎年11月第3水曜日に行われています。

当日は、300名近いご遺族を始め、医学科学生、職員など含む700名余りが出席し、厳粛に執り行われました。献体されたご尊名の奉読に次いで、伊地柴敏でいご会会長、岩政輝男学長の代理として新里里春副学長、坂梨又郎医学部長から追憶のことが、学生代表として医学科2年次の毛利康一さんから感謝のことが述べられ、御霊に対しご冥福をお祈りしました。

その後、医学部混声合唱団によるレクイエムが合唱されるなか、全員参加による献花があり、御霊に対する供養が行われました。

最後に、法医学の宮崎哲次教授から謝辞があり、会場の体育館出入口にて、学生、職員総出で感謝の意を込めて、ご遺族の方々を見送り、静かに幕を閉じました。



「追憶のことが」を述べる新里副学長

## 琉球大学と報道機関との懇談会を実施

1月24日（木）、報道機関との連携・協力を一層進め、地域に根ざした大学として教育・研究活動、社会貢献等に関



懇談会の様子

する情報を積極的に発信することを目的として、報道機関との懇談会を本学第1会議室で実施し、沖縄県内の報道機関及び県内に支社を置く報道機関6社が出席しました。

懇談会では、始めに岩政輝男学長より本学の将来構想や現状等について説明があり、特記事項として観光産業科学部の設置、「人の移動」に関する共同研究等を紹介しました。

報道機関からは、観光産業科学部における人材教育や道州制に係る研究、インターネット上での教員の検索に関する意見や要望などがあり、終始和やかな雰囲気の中で懇談が進められました。



## 沖縄県との産業振興連携協定の締結式

社会連携

9月3日（月）、沖縄県庁6階第2特別会議室にて、本大学と沖縄県との産業振興連携協定の締結式が行われました。

この協定は、相互に密接な連携協力を図り、地域産業の課題に適切に対応することにより、民間主導による自立型経済の構築と活力ある地域社会の形成・発展並びに本県における教育研究と産学官連携の進展に寄与することを目的として定めたものです。

仲井真弘多知事は「産業振興のみならず、沖縄の発展のために琉球大学の先生方の力をお借りしたい」と話し、岩政輝男学長は「この協定を結ぶことによって、今後は大学全体として県と一緒に仕事ができる事になる。教育と研究を充実さ

せ、地域貢献に力を発揮できるようにしていきたい」と抱負を述べました。



協定を結んだ岩政学長（左から2人目）と仲井真知事（同3人目）

## 第1回防災・環境シンポジウム開催 ～亜熱帯海洋島嶼防災・環境ネットワークの拠点形成～

12月1日(土)、那覇市内で本大学防災・環境ネットワークの主催で第1回防災・環境シンポジウム～亜熱帯海洋島嶼防災・環境ネットワークの拠点形成～が開催され、約200名が参加し、盛況でありました。

宮城隼夫副学長の挨拶から始まり、次いで仲座栄三工学部教授が本キックオフシンポジウムの開催趣旨を説明し、本学の工学部、理学部、農学部が防災と環境の観点からそれぞれ講演を行いました。そのほかに国、県、気象台、民間研究所の方も行政の立場から防災と環境について講演したほか、平田大一氏に特別講演とアトラクションをお願いした異色なシンポジウムでありました。

シンポジウムの最後に山川哲雄工学部長が防災・環境シン

ポジウム大会宣言を読み上げました。それは、学内に総合防災・環境ネットワークを構築するとともに、本学を核に亜熱帯海洋島嶼防災・環境ネットワークの拠点形成を行い、防災・環境に関して大学内外の連携、教育・研究の推進を図ろうとするものであります。こうしてシンポジウムを成功裏に終了させました。



会場の様子

## 放射線医学総合研究所との教育、研究及び医療の協力に関する協定書締結式

11月12日(月)、本学第1会議室にて、本学岩政輝男学長と放射線医学総合研究所の米倉義晴理事長が教育、研究及び医療の協力に関する協定に調印しました。

本協定は、放射線医学に関する科学技術の水準の向上に寄与しているとともに、重粒子線治療に関する研究では、世界最先端の水準にある放射線医学総合研究所と、地域医療の推進に寄与することが期待されている本学とが、教育、研究及び医療に関する協力協定を締結することにより、この分野での人材育成、学術交流・医療協力が促進され、沖縄における放射線診断、放射線治療の発展を目指すものとなっています。

重粒子線がん治療装置は、患部を切らずに治療でき、難治性がんに対し高い治療効果があります。岩政学長は「重粒子線治療は副作用が少ない治療法で県民にメリットがある、県内で治療できる体制を整えていきたい」と挨拶し、米倉理事長は「知識、財産を共有する事によって人材育成やさまざまな面で協力していきたい」と話しました。



協定を結んだ岩政学長(右)と放射線医学総合研究所 米倉理事長(左)



## 「ハワイ異文化研修2007」

### 国際交流

9月16日から10月1日の日程で外国語センター主催の「ハワイ異文化研修2007」が行われ、32人の学部学生が参加しました。

同研修はハワイ大学マノア校と外国語センターが連携し、センターの要望に添って研修内容が生まれ、ハワイ大学教員による講義だけでなくフィールドトリップなどの体験学習で構成されています。参加した学生は2週間にわたってハワイの言語、歴史、音楽、民族文化などを英語で学びました。平和研究の講義は難しかったようだが、同日午後にパールハー

バーを訪れることによって平和研究の重要性を改めて認識させられました。また、ハワイの歴史に刻まれた沖縄移民の足跡を学ぶべくプランテーション・ビレッジを訪れました。

変わったところではフラをプロの講師から学び、レイ(花の首輪)を専門家の指導のもとで自作したりしました。滞在先の学生寮ではハワイ大学生を対象に聞き取り調査を行い、学内のカフェテリアでは英語力を磨くため積極的に会話を楽しみました。ハワイ大学在学中の琉大卒業生と懇談会を催すなど、充実した2週間でありました。



フィールドトリップ Lei Making



ハワイ大学講義後の記念撮影

## アジア人財資金構想シンポジウムを開催

2月5日（火）、那覇市内のホテルにおいて、アジア人財資金構想「沖縄における新たな国際ネットワーク構築—留学生人材育成事業が担う沖縄地域振興への役割—」を開催し、参加5大学（琉球大学、沖縄大学、沖縄キリスト教学院大学、沖縄国際大学、名城大学）、コンソーシアム関係者、沖縄県、沖縄総合事務局、沖縄県各企業団体、沖縄県内等各企業、一般市民等約100名が参加しました。

宮城隼夫副学長（財務・施設・医療担当理事）、金城秀雄沖縄県観光商工部参事監兼観光交流統括監の挨拶に続いて稲嶺恵一前沖縄県知事が「沖縄から海外へ～県の自立経済への道」と題して基調講演を行ない、「沖縄にいる留学生は沖縄にとっての財産だ」と述べ、優秀な人材の活用を呼びかけました。

パネルディスカッションではコーディネーターを名城大学教授の宮平栄治氏が務め、パネラーとしてリザンシーパークホテル谷茶ベイ総支配人蓬萊誠悟氏、沖縄ツーリスト株式会社代表取締役社長東良和氏、沖縄県中小企業同友会代表理事糸数久美子氏、内閣府沖縄総合事務局経済産業部長市原健介氏、株式会社東京リーガルマインド那覇支社長伊藤昌樹氏、



講演を行う稲嶺前知事

弓削琉球大学学術国際部留学生課長が参加し、沖縄県内各企業の国際化進展と留学生生活用の必要性等について活発に議論が行われ、「アジア人財資金構想」への期待が多く寄せられました。

最後に安田正昭留学生センター長がまとめを行い、シンポジウムを終わりました。

## 第19回 留学生による日本語スピーチ大会開催

琉球大学において学んでいる外国人留学生による日本語スピーチ大会が大会会館にて開催され、2月7日（木）に初級部門、8日（金）に中上級部門が行われた。

初級部門には25名がエントリーし、ペレツ・マイク・ポール・フィリップさん、ガラールド・エミリー・ヴィルジニーさん、金城コリン完治さんの3名が優秀賞に選ばれ、中上級部門では43名の中から、全春橋さん、リン・ウィラさん、マイエフスカ・アリツィアさんの3名が優秀賞に選ばれました。各部門とも会場の投票で選ばれた「皆で選んだで賞」など特別賞も数名選ばれました。

会場には書道等の作品が展示され、スピーチ後には歌や民族舞踊等の余興もあり、両日多くの参加者で賑わいました。



受賞者での記念撮影（初級）



受賞者での記念撮影（中上級）

## 沖縄地域留学生交流推進協議会

11月29日（木）、那覇市内のホテルにおいて、沖縄県内の大学、行政機関、地方公共団体、公共事業体、経済団体、民間企業等で組織されている沖縄地域留学生交流推進協議会総会が開かれました。

本協議会は、今後さらに大幅な増加が予測される外国人留学生の受け入れ体制を整備し、地域社会との交流を積極的に推進するため、関係機関並びに多くの民間団体等の協力のもとに昭和63年に設立されました。

総会終了後、県内の外国人留学生等を招待して、関係者との留学生等親善交流会が催されました。会場には約300名の留学生及び関係者が参加し、大学別や出身国別の余興で終

始賑わい、国際色豊かなパーティは多くの留学生同士、日本人関係者等との交流の場となりました。



琉球大学留学生 三線サークルによる余興



## 受賞者等一覧

## 受賞一覧

### 学生

- 日本動物学会 Zoological Science Award,2007  
大学院理工学研究科 Mohammad A.Alamさん
- WFWP女子留学生日本語弁論大会最優秀賞  
チョマー カウン ミインさん（ミャンマー）
- 日本サンゴ礁学会ポスター賞  
大学院理工学研究科 甲斐清香さん
- メタロミクス国際シンポジウム2007ポスター賞  
大学院教育学研究科 可部徳子さん
- 第58回西日本畜産学会優秀発表賞  
農学研究科生物生産修士1年 山内昌吾さん
- 日本油化学会 オレオマテリアル賞  
鹿児島連大生物資源利用科学博士3年 高橋誠さん
- レーザー光電子国際会議 Student Travel Grant 賞  
大学院理工学研究科外国人留学生特別コース  
(現博士1年) Mr.Razzak S.M.Abdur さん
- IEEE学生論文発表賞  
理工学研究科電気電子工学専攻 菊永康朗さん  
理工学研究科電気電子工学専攻 大嶺英太郎さん
- IEEE福岡支部第7回学生研究奨励賞  
理工学研究科情報工学専攻 Naznin Farhanaさん  
理工学研究科電気電子工学専攻 宮城淳哉さん  
理工学研究科電気電子工学専攻 大嶺英太郎さん

### 教職員

- 日本動物学会 Zoological Science Award, 2007  
熱帯生物圏研究センター 廣瀬慎美子さん  
理学部海洋自然科学科 日高道雄教授  
熱帯生物圏研究センター 中村將教授
- Daiwa Adrian Prizes受賞  
稲垣匡子博士、松崎吾朗教授（遺伝子実験センター  
分子感染防御分野）研究チーム
- 平成19年度蚕糸学進歩賞（技術賞）  
中島裕美子准教授、屠振力客員教授、前川秀彰教授  
(遺伝子実験センター遺伝子機能解析分野)の研究チーム
- Eminent Scientist of the Year 2007を受賞  
大学院医学研究科病原生物学分野 森直樹教授
- 第29回沖縄文化協会賞（比嘉春潮賞）  
法文学部 赤嶺守教授
- 第29回沖縄研究奨励賞  
遺伝子実験センター 徳田岳助教  
医学部 要匡准教授
- 第35回伊波普猷賞  
法文学部 我部政明教授
- 平成19年医学教育等関係業務功労者表彰  
材料部 城間安夫医療技術補助員  
放射線部 東恩納勇主任診療放射線技師



## はじめに

国立大学法人は、国立大学法人法に基づき各事業年度における業務の実績を文部科学省に置かれている国立大学法人評価委員会に報告し、評価を受けることとなっています。

このたび、平成18年度に係る業務の実績に関する評価結果が通知されましたので、その概要をお知らせします。

## 評価方法

国立大学法人評価委員会が行う評価は、業務運営・財務内容の経営面を中心に、中期計画（文部科学大臣が定める中期目標に基づき法人が定める：平成16年度～平成21年度の6年間）の進捗状況を調査・分析し、業務の実績全体を総合的に評価するものです。この評価結果は、あくまでも各法人が設定した中期計画に対する平成18事業年度における業務の実績を評価したものであり、法人間を相対評価するものではありません。

評価は、

- (1) **全体評価**： 当該事業年度における中期計画の進捗状況全体について、記述式により総合的に評価されます。
- (2) **項目別評価**： 「業務運営の改善・効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「その他業務運営」の4項目について、以下の5種類により進捗状況が示されます。

- 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合） (5)
- 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる (4)
- 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる (3)
- 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている (2)
- 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合） (1)

なお、「教育研究等の質の向上」については、事業の外形的・客観的な進捗状況を確認し、特筆すべき点や遅れている点が指摘されます。

## 評価結果の要約

### (1) 全体評価

- ①大学運営の活性化や効率化、学長のリーダーシップ体制の強化を推進するため、学長特別政策経費を新設するとともに、予算配分の在り方や組織体制の見直し等を行っている。また、大学構内駐車場の有料化の課題に取り組んでいる。
- ②企画・経営戦略会議等において、スクラップアンドビルドの観点を取り込んで、地域社会の要請に柔軟に対応できる特徴のある大学像の創出とその実現に向けて努力されることが期待される。
- ③科学研究費補助金申請へのインセンティブを高める観点から、高額的外部資金を獲得した教員へ「中期計画実現推進経費」からインセンティブ経費が配分されている。
- ④人事評価については、教員業績評価の考え方（素案）が作成され、今後、本格実施に向け着実に取り組むことが期待される。

### (2) 項目別評価（評価とともに、今後、改善・努力する必要性のある点を指摘）

#### ①業務運営の改善及び効率化（評価：4） ※昨年度（評価：4）

- 重要な政策を円滑かつ着実に遂行するため、「学長特別政策経費」が新設されている。
- 部局全体で20の委員会を7委員会に整理統合し、9委員会を廃止することにより迅速な意思決定が図られている。
- 「中期計画実現推進経費」は、全学的な見地から評価の高いプロジェクトに対して戦略的に配分されている。
- 事務系職員の異動について、業務が繁忙となる時期と重ならないよう、7月1日付で実施することとしている。
- 文系学部と理系学部の各々の研究費単価を設定し、配分予算の積算に反映している。
- 全学的な業務改善の取組を行い、メール会議など、委員の負担軽減や事務の省力化が図られている。

## ②財務内容の改善 (評価：4) ※昨年度(評価：3)

- 高額の外部資金の獲得が期待できる特色ある研究プロジェクトの育成を支援している。
- 外部からの受託試験・検査・分析等を実施による収入増や横断的な人的活用による支援体制の確立に着手している。
- 産学連携コーディネーターの積極的な取組により、受託研究、共同研究の受入額が増加となっている。
- 診療報酬改訂の影響に対処すべく、入院・外来において大幅な増収が図られている。
- 今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。
- 大学構内駐車場の有料化に関する検討が開始されるなど指摘に対する取組が行われている。

## ③自己点検・評価及び情報提供 (評価：4) ※昨年度(評価：3)

- 大学情報を県内テレビ局の番組で紹介したほか、解説付き財務報告書を作成し、学内外へ配布するなど、特色ある広報活動を展開している。
- 教員業績評価の考え方(素案)を作成、今後、制度の導入に向け着実に取り組むことが期待される。
- 平成17年度評価結果で評価委員会が課題として指摘した事項について取組が行われている。

## ④その他業務運営に関する重要事項 (評価：4) ※昨年度(評価：4)

- 有効活用されていない施設について、有効利用計画を提出し、学長名では正勤告を行うなど、有効活用を推進している。
- 「エコアクション21」への認証・登録を決定するとともに、「エコアクション21行動指針」を策定している。
- 「緊急事態が発生した場合の連絡体制」及び「災害等発生時の対応」の作成、医学部・附属病院台風対策マニュアルの更新が行われている。

※教育研究等の質の向上の状況(中期目標最終年度に評価される)

- 教員表彰制度「プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー」にかかるインセンティブ経費の倍増、機械システム工学科、電気電子工学科が日本技術者教育認定機構(JABEE)認定プログラム認定、インターネット遠隔講義システムを用いた講義、外国語センターに特任教員、英語及びスペイン語に関するプロジェクトチームを設置、離島医療人養成教育プログラム離島医療病院実習の実施、実践的IT技術者教育プロジェクトが「組み込みソフト人材育成事業」に採択。
- 21世紀COEプログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」の国際シンポジウム等の開催、若手研究者の育成・支援及び共同研究を実施、独立行政法人国際協力機構(JICA)専門家派遣制度による職員を派遣。
- 離島高等学校の出前講座を実施やインターネット利用による授業ネット配信するなど、地域事情に応じた高大連携事業の取り組み。
- サンゴ礁生物、マングローブ、陸上生物多様性、地球温暖化対策などの共同研究を推進している。  
(附属病院関係)
- 経営面において、具体的な目標・指標を設定するなどマネジメントの徹底に努めることにより、運営改善の一層の推進を期待する。
- 「離島医療人養成教育プログラム」採択、臓器別専門医育成コース、総合診療育成コースを設定、プライマリーケア専門研修プログラムの作成。
- 難治性感染症について、産学共同研究を推進、探索的臨床研究の推進、高血圧や降圧剤、糖尿病薬の臨床薬理学的研究の推進。
- エイズ治療中核拠点病院の選定を受け、沖縄県がん診療連携拠点病院の指定を目指している。
- 巡回指導医の公募による離島医療を支援、等が評価される。

## 国立大学法人全体の評価

平成18年度の状況については、いずれの法人においても、法人化を契機として導入された運営・経営体制が定着してきており、各法人が置かれた環境等に応じてそれぞれ必要な見直しを行いつつ、学長等のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした機動的・戦略的な法人運営に努力されていることが高く評価されています。

※中期目標・中期計画・年度計画及び評価結果の詳細は本学ホームページの「琉球大学の法人資料」に掲載しています。

## 平成19年度千本桜植樹祭



地域に開かれ地域と共に発展する大学を目指す取組の一環として、本学が隣接する中城村、宜野湾市、西原町協賛のもと、平成19年度千本桜植樹祭が12月1日（土）、本学千原キャンパス内の中城地区で実施されました。

開会にあたって、岩政輝男学長から各市町村からの参加者の方々へお礼の言葉が述べられ、その後、新里孝和農学部教授から植え付けに関する説明がありました。用意された300本の桜の苗木は、岩政学長、新垣正祐西原町長、新垣邦男北中城村長、比嘉盛行中城村副村長、安里猛宜野湾市副市長をはじめ、各市町村の職員、地域住民、大学教職員等約300名が協力し、手際よく植え付けられました。

植え付け終了後には、桜が無事大きく育つ事を祈念して中城村南上原自治会子供会によるパーランクー（エイサーの時に使われる手持ち太鼓）の演舞が行われ、嘉数啓副学長から終了の挨拶がありました。

千本桜植樹祭は地域と共有できる緑地環境を創出し、心の拠り所として花香る豊かな緑地空間の場を提供することを目的に昨年度から実施され、千原キャンパスの「センバル」に因んで3年間で千本の寒緋桜の苗木を植林します。

なお、3年目にあたる平成20年の植樹は宜野湾市地区で実施する予定です。



苗木を植える岩政学長（中央）



苗木を植え付ける参加者

## AEDを活用し人命救助

10月27日（土）、本学で開催された第57回日本中国語学会全国大会で、講演を行った台湾国立中正大学の戴浩一教授が倒れ、心肺停止状態に陥ったところを会場にいた石崎博志法文学部准教授、伊藤さとみ法文学部准教授、松浦雅子さん（琉大大学院）、張盛開さん（東京外語大大学院）、合志路子さん（関西大大学院）5人が連携し命を救いました。

5人は、人工呼吸、心臓マッサージ、AED（自動体外式除細動器）による措置を行い戴教授は倒れてから2、3分で意識を回復しました。その後救急車で附属病院に搬送され、11月6日に退院し翌日には帰国されました。

的確な救命措置を施したとして、救命活動をした5人に中城北中城消防本部より感謝状が贈られました。



感謝状を受け取った（左2人目から）石崎准教授、伊藤准教授、松浦さん

## 大学からの お知らせ Information

### 授業料の納入について

琉球大学では、授業料の納付については、盗難や紛失等の事故防止及び学生の利便を図るために、各種公共料金と同様原則として「口座振替制度」を利用しています。これは、本学指定の金融機関（銀行）が本学の指示する日に、授業料相当額を学生（又は保護者等）名義の預金口座から本学の口座に振替えることによって納付する制度です。

問い合わせ先 琉球大学財務部資金管理課収入係 【電話番号】 098-895-8058

### 保護者の皆様へ

本誌は、入学時に登録された学生の保護者等の住所へ送付しております。住所変更等がございましたら、学生本人から、学生の所属する学部の窓口まで届け出るようお願いいたします。

琉大ニュースレターは琉球大学公式ホームページでもご覧になれます。  
<http://www.u-ryukyu.ac.jp/>